

合ハ專賣ノ特權ヲ與フ可カラサル發明或ハ法ニ背キタル發明ニ此特權ヲ與ヘタル時并ニ發明ノ主旨書ニ詐僞アル時ナリトス(千八百四十四年七月五日ノ法律第三十條第二項、第三項、第四項、蓋シ其他ノ無効ノ場合及ヒ失權ノ總テノ場合ニ於テハ檢察官唯其通知ヲ受クルノミトス(千八百四十四年七月五日ノ法律第三十六條及ヒ第三十七條)無効ノ訴ヲ民事裁判所ニ爲ス時ハ訴訟法第四百五條以下ニ倣フテ略式吟味ノ法式ヲ以テ裁判ス可シ而シテ其訴ハ被告人住所ノ裁判所ニ爲ス可ク若シ又同時ニ專賣特權ヲ得タル者ト其特權ノ讓渡ヲ受ケタル者數人トナリ相手取ル訴ハ第三十五條ニ從ヒ專賣特權ヲ得タル名前人住所ノ裁判所ニ訴出ツ可キ者トス但シ此規則ハ通則ニ違背スル所アリ何トナレハ訴訟法ニ從ヘハ原告人タル者ハ被告人數人アル時ハ已レノ撰ミニ從ヒ其中一人ノ住所ノ裁判所ニ訴フルヲ得可ケレハナ

リ(訴訟法第五十九條)

〔第五百三十九節〕 贗造ノ訴ハ直チニ懲治罪裁判所ニ呼出シテ之ヲ始ム可シ但シ檢察官ハ此事ニ關係アル者ノ訴ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ニ關スルヲ得ス(千八百四十四年七月五日ノ法律第四十五條)

贗造ハ專賣ノ特權ヲ得タル者ノ製品ヲ僞造シ又ハ密カニ其製法ヲ適行スルヨリ生スル所ノ罪ニシテ之ヲ犯シタル者ハ百フランク以上二千フランク以下ノ罰金ニ處セラル可ク又再犯ノ場合ニ於テハ一月以上六月以下ノ禁錮ニ處セラル可シ(千八百四十四年七月五日ノ法律第四十條及ヒ第四十一條)但シ此一月以上六月以下ノ禁錮ハ尙ホ初犯ニ付テモ左ノ場合ニ於テハ之ヲ言渡スヲ得可シ

專賣ノ特權ヲ得タル者ノ製造所ニテ使役シタル職工又ハ受役人贗造ヲ爲シタル時

專賣ノ特權ヲ得タル者ノ職工又ハ受役人ト相通シ此者ヨリ其製造ヲ
開取リテ贗造ヲ爲シタル時

〔第五百四十節〕贗造ノ訴ヲ受ケタル懲治裁判所ハ專賣特權ノ無効又
ハ失權ニ付テノ故障辨論ヲ裁判スルヲ得可シ(千八百四十四年七月五
日ノ法律第四十六條)但シ若シ此第四十六條ヲ以テ此事ヲ定メサル時
ハ贗造ノ訴ヲ受ケタル者ハ必ス懲治裁判所ニ故障辨論アル旨ヲ申立
テ爲メニ時期ヲ延引スルヲ謀ル可シ蓋シ斯クノ如キ時ハ光陰ハ金
ナリノ諺ニシテ實ニ訴訟ヲ延引シ其間力メテ偽造ヲ爲シテ以テ己レ
ノ利益ヲ謀ルヲ得可シ依テ千八百四十四年七月五日ノ法律第四十六
條ヲ以テ無効又ハ失權ニ付テノ故障辨論ヲ裁判スルノ權ヲ懲治裁判
所ニ與ヘ以テ其延引ノ期ヲ縮短シテ可成訴訟ヲ速カナラシムルヲ
欲セリ

〔第五百四十一節〕無効又ハ失權ノ訴ヲ民事裁判所ニ爲ス時ハ其裁判
常ニ定例ニ從フテ爲ス可シ蓋シ例ヘハ其一般ノ爭ニ付テハ其無効ナ
ルト法ニ適シタルトハ是迄ノ裁判ニ於テ判然タルカ如シ之ニ反シテ
懲治裁判所ヘ訴ヘテ贗造ノヲニ付キ無効又ハ失權ノ故障辨論ヲ爲ス
時ハ其罪ヲ犯シタル時ニ際シテ新クニ其爭ヲ裁判ス可シ故ニ然ル時
ハ初度犯罪ノ時ノ判決ヲ以テ再度ノ犯罪ヲ判決スルノ例ト爲スヲ
得ス蓋シ民事裁判所ノ裁判ト懲治裁判所ノ裁判トノ差ハ民事裁判所
ニテハ法ニ適シタルト失權ニ至リタルトヲ訴訟ノ目的トシテ裁判シ
懲治裁判所ニテハ贗造ノ爭ヲ目的トシテ裁判スルニ在ルナリ
〔第五百四十二節〕茲ニ又民事裁判所ニテモ懲治裁判所ニテモ裁判ス
ルヲ得スシテ行政裁判所ニ送ル可キ者アリ例ヘハ裁判ニ於テ一方ノ
者專賣ノ特權ヲ得タルニアラサルヲ辨論シ又ハ其特權願ノ主旨ヲ

誤認シテ之ヲ與ヘタルコトヲ辨論シタル時ノ如キハ其特權ヲ與ヘタル
所以ヲ解スル爲メ裁判所ヨリ之ヲ其特權ヲ與ヘタル宰相ニ送ル可シ
其他宰相ノ決定ハ此事ニ付キ行政裁判所ヘノ控訴ヲ受クルコトアル可
シ蓋シ其與ヘタル專賣特權ノ其願旨ニ應スルヤチ知ルニ付テハ行政
訴訟ヲ以テ裁判ス可キヲ以テナリ然リト雖モ若シ此事ニ關係アル者
ヨリ宰相ノ判決ニ付キ異議ヲ述ヘサル時ハ裁判所ニ於テ宰相ノ決定
ハ確定ノ者ニ非サルノ旨ヲ以テ雙方ノ者ヲシテ參議院ニ出訴セシム
ルヲ得ス蓋シ宰相ノ決定ハ之ニ付キ異議ヲ述ヘサル時ハ其爭ヲ止ム
可キ者ナレハナリ

婆督 政法論第五帙卷之四 終
備氏

明治十四年二月九日版權屆

